

<目標分野> ※該当するものに全て印

- ☑ ① スポーツを活用した経済・社会の活性化
- ☑ ② スポーツを通じた健康増進・心身形成・病予予防
- ☑ ③ 自然と体を動かしてしまふ「楽しいまち」への転換

<PRポイント>

●オリンピック基準の施設や世界大会の開催が可能な施設など高水準の各種スポーツ施設の整備

2020東京五輪を機に、オリンピック基準のホッケー場及びテニスコートを整備した他、2024パリ五輪に向け競技人口が増加している、BMXやスケートボード等のアーバンスポーツが実施可能な世界レベルのアーバンスポーツパーク等、高水準で各々の競技レベルの向上にチャレンジできる環境を整備。

●世界レベルのアーバンスポーツパーク整備による新たな世代のアスリート創出

2020東京五輪から正式種目となり、若手選手の活躍が目覚ましいBMXフリースタイルやスケートボード等が行える世界レベルの施設を整備したことにより、世界的大会等を開催できトップアスリートの育成や競技人口の増加につながる場を提供。技量を磨きたい若い世代の競技者を抱える世帯の移住・定住施策にも繋がる。

●健康促進を目的としたトレーニングジムの整備

老若男女問わず健康を促進するため、人気の有酸素運動マシンをはじめ、各種多様な器具・マシンを揃えた本格的なトレーニングを行えるジムを整備。

<概要> 計画期間：～令和7年3月31日

【現状・課題】

町の魅力を向上し、交流人口の拡大に繋げるべく、これまで、観光拠点である「道の駅さかい」に**世界的建築家である隈研吾氏が設計した「さかい河岸レストラン 茶蔵」**等を整備した他、同氏設計の建築物を計6施設整備するなど、**観光コンテンツの造成や開発**に努めている。

現在、核となる観光コンテンツの一つとして、**当町においての夏の風物詩である「利根川大花火大会」**がある。年に一度開催される本大会は、2019年(令和元年)には全国5位の2万3,000発を打ち上げ、総観覧者数約25万人を誇る一大イベントとなっているが、**多くの方が日帰り来訪者**である。

そのため、**通年来訪**していただき、「街なかへの回遊」及び「滞在時間の増加による宿泊」や「消費額の向上」に結び付けていく**新たなコンテンツ**が必要であり、かつ、**移住定住者の確保及び住民の健康促進**等にも繋げるべく、「**スポーツを活用したまちづくり**」を推進していく。



茨城県境町の歴史



道の駅さかい公式HP



境町観光協会公式HP



境町で開催される「利根川大花火大会」の様子



隈研吾氏が設計した「さかい河岸レストラン 茶蔵」(左)



「モンテネグロ会館」(右)

<目標内容> スポーツを軸にした持続可能な交流人口拡大・健康まちづくりの実現

【具体的目標】

- ① 交流人口の拡大 <交流人口：約70万人(令和元年)→約200万人(令和6年)>
- ② 移住・定住の促進 <社会増減数：40人(令和元年)→300人(累積、令和2年～令和6年)>
- ③ 健康促進 <スポーツ施設利用者等数：約8万人(平成30年)→約9万人(令和6年)>

【総合的な取組内容】

- 世界大会をはじめとした各種スポーツ大会・合宿等の誘致
- 健康づくりのための各スポーツ施設及びトレーニングジムの利用促進
- スポーツ施設と隈研吾氏設計建築物を軸としたツーリズムの促進



地域再生計画



自動運転バス



高速バス(境町⇄東京駅)

DMO

((株)さかいまちづくり公社)

- ・スポーツツーリズム等の観光コンテンツ開発
- ・多様な関係者との連携調整等

指定管理事業者

- ・受入れ整備(主にソフト面)
- ・イベント等企画等

外部アドバイザーとの連携

境町戦略会議委員

(国・大学・民間企業等のメンバーで構成)

- ・町が実施する事業について指導・助言等を行う

各種基礎データ

- スポーツ部局の所属先：企画部地方創生課
教育委員会生涯学習課
- 地方スポーツ推進計画：なし
- 地方版総合戦略：第六次境町総合計画(令和元年3月改訂)
- 地域スポーツコミッション：なし
- ホストタウンの相手先：アルゼンチン共和国
- その他：境町まち・ひと・しごと創生総合戦略(令和2年3月改訂)



第六次境町総合計画(令和元年3月改訂)



境町まち・ひと・しごと創生総合戦略(令和2年3月改訂)